

■10月9日

国交省、日航のエアバス新規機材投入、問題なしの見解、安全に対する投資に該当

国交省は8日、日航がエアバスA350型機シリーズを計56機発注したことに対して、昨年8月10日の「日本航空の企業再生への対応について」(JAL対応指針)の内容には違反しないとの見解を示した。

今回のJALによる新規機材導入への投資は機材更新のためのもので、問題がないとしている。むしろ同指針には「日本航空において安全に対する十分な投資その他の安全対策が適切かつ確実に実行されてかを確認するため、監視し、必要に応じ、指導助言を行う」と書かれており、ここでいう安全への投資に該当するとの考えだ。

(日刊航空)10/9

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

全日空、国内線搭乗券、保安検査場で出力に変更

全日空はこのほど、ANAグループが就航する全ての国内空港で、12月3日から“搭乗券”の発行を現在の搭乗口から保安検査場に変更する方針を決めた。現在、羽田空港をはじめ15空港の保安検査場で出力している“搭乗口案内用紙”を廃止し、搭乗券に一本化することでシンプルなサービスへと改善する。

また、乗り継ぎ利用者に対しては、現在の空港ごとに搭乗口で搭乗券発行を改め、最初の出発空港の保安検査場で乗り継ぎ分を含めた搭乗券を発行する方式に改める。(->)

12月からの新しいサービスでは、これまで搭乗口案内用紙を出していなかった39空港も含め、全ての保安検査場で搭乗券を出力する。なお、搭乗ゲートの改札は、この搭乗券では通過できず、IC機能付きカードや同携帯電話、2次元バーコードが印刷された案内書など、保安検査場で使用したもので搭乗を行う。

(日刊航空)10/9

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

PEACH(LCC)、関空—松山線開設、2月1日から、1日2往復

ピーチ・アビエーションは8日、10番目の国内線路線として、2月1日から関空—松山線を開設すると発表した。当初1日2往復を運航し、搭乗率は75%を見込む。利用状況次第で増便も検討する。ピーチとしては初の四国路線で、観光や親族訪問の需要を掘り起こす。運賃は、ハッピーピーチ片道運賃を3,290~14,490円と設定をした。

現在、同路線に就航している航空会社は大手を含めて存在せず、また、伊丹—松山線を運航しているLCCもない。産経ニュースによると、同社は「需要が大きいと判断」し、先月下旬に路線開設を決めたという。

加えて、当初同路線は国内需要が主になる見込みとしながらも、同社の国際線からの外国人旅客の訪日需要も期待している。

(PEACHプレスリリース)10/8

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/131008-Press-Release-J.pdf> (->

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/131008-Press-Release-J.pdf>)

(トラベルビジョン)10/8

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59135> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59135>)

(産経ニュース)10/9

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131009/ehm13100902120000-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131009/ehm13100902120000-n1.htm>)

(->)

太田国交相、羽田発着枠配分は適切、日航へは配分の考え方を丁寧に説明

(時事ドットコムによると)

太田昭宏国土交通相は8日の閣議後記者会見で、日本航空が羽田空港の国際線発着枠配分のやり直しを申し入れたことについて、「配分は適切に判断、決定した」と述べ、応じない考えを表明した。その上で「配分の考え方を丁寧に説明する」と語った。

日航は枠配分に関連する行政文書の開示も請求しており、太田国交相は「情報公開法にのっとり適切に対応する」と述べた。

(時事ドットコム)10/8

[http://www.jiji.com/jc/c?g=eco\\_30&k=2013100800398](http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013100800398) (-> [http://www.jiji.com/jc/c?g=eco\\_30&k=2013100800398](http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013100800398))

全日空・日航、アイソン彗星観測ツアー、発売開始数時間で完売

全日空と日航がそれぞれのグループ会社のチャーター便として運航する「アイソン彗星」を上空から観測できる特別ツアー(12月8日未明羽田から90分間のフライト)が、発売開始から数時間でほぼ完売状態となった事が分かった。

東京ベイ経済新聞によると、販売はそれぞれ10月3日・4日に開始したが、両便とも窓際席から順に予約が埋まり、数時間でほぼ完売状態に。7日午前中の時点で、日航が通路側の数席を残すのみとなっている(売り切れ次第終了)。航空機からの彗星鑑賞というユニークな企画が、航空ファンと天文ファンの注目を集めたようだ。2人1組の2席の価格は、全日空が9万9,600円、日航が7万6,000円～。

(東京ベイ経済新聞)10/8

<http://tokyobay.keizai.biz/headline/1373/> (-> <http://tokyobay.keizai.biz/headline/1373/>)

(ANAプレスリリース)10/2

[http://www.ana.co.jp/pr/13\\_1012/13-asx-015.html](http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-asx-015.html) (-> [http://www.ana.co.jp/pr/13\\_1012/13-asx-015.html](http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-asx-015.html))

(JALプレスリリース)10/2

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002660.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002660.html>)

エティハド航空、アブダビーロサンゼルス直行便開設、来年6月

アラブ首長国連邦(UAE)のアブダビに本拠を置くエティハド航空は、アブダビーロサンゼルス直行便を2014年6月から毎日運航すると発表した。使用機材はボーイング777-ER。

また、ジェームズ・ホーガン最高経営責任者(CEO)は来年中にさらに米国の別の目的地を追加する見通しを示した。

(WSJ)10/8

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303941704579122283152394004.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303941704579122283152394004.html>)

タイ、主要空港、利用者数、前年度比20.4%増

タイ空港社(AOT)によると、国内の主要6空港の利用者数は、昨年度(昨年10月～今年9月)1年間で8613万人にのぼり、前年度を20.4%上回った事が分かった。利用者の内訳は、外国人5426万人、タイ人3187万人。また、航空機の離着陸回数は16.5%増加の55万9397回だった。

格安航空会社の増便や中国人観光客の急増、安定した政治、国内航空網の拡充などが寄与した。

空港別では全体の59%(利用者数5090万人)がスワンナプーム空港を利用し、発着回数も全体の51.5%の28万7997回だった。

(バンコク週報)10/8

[http://www.bangkokshuho.com/article\\_detail.php?id=2764](http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2764) (-> [http://www.bangkokshuho.com/article\\_detail.php?id=2764](http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2764))

ジェットスター(LCC)、ボーイング787受領、LCC初

ジェットスターは7日、ボーイング787初号機を受領したと発表した。今後、オーストラリアの航空当局から承認を取得し、まずはメルボルンからゴールドコーストとケアンズに国内線を運航。その後、年末にかけて国際線に就航する計画だ。

同社は、国際線用として14機発注しており、現在エアバスA330型機で運航している日本やハワイ、プーケット、パリの路線をボーイング787型機で置き換えていく計画だ。

尚ジェットスターに導入されたボーイング787型機は、ビジネスクラスが21席、エコノミークラスが314席の合計335席で、全席に機内エンターテインメントシステムを搭載、機内の空間もより広くなり、持ち込み手荷物用のスペースも拡大したという。

(トラベルビジョン)10/8

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59137> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59137>)

(ジェットスター プレスリリース)10/7

<http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?id=0ae3b945-080d-4be0-9c73-e353ac8b022c&language=en> (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?id=0ae3b945-080d-4be0-9c73-e353ac8b022c&language=en>)

エアアジア、中国工銀子会社が融資契約、上海自由貿易区

(朝日新聞によると)

中国民航報の報道によると、中国工商銀行子会社の工銀金融租賃有限公司はマレーシアのエアアジアと10億米ドルの航空機融資提携の備忘録に署名した。上海自由貿易試験区の始動後、航空機リースに活用される見通し。10月8日、毎日経済新聞網が伝えた。

国務院が公表した上海自由貿易試験区の運営案によると、融資やリースを手がける企業は域内で子会社を設立し、業務を行うことを認められている。

報道は、工銀租賃がエアアジアに対し、数年内に10億米ドルの融資とリース業務を提供するとしている。エアアジアの関係者はこの報道を認めたが、詳細は今後詰めるとしている。

上海自由貿易区に登録した中国のリース会社は、政府の管轄部門の承認を得た後、25トン以上の航空機を購入してリースに出すと、税制優遇を受けられる見通し。

多くの金融機関が、上海自由貿易区の金融リース業務を成長分野と位置づけており、最近の報道によると、中国銀監会は交通銀行が上海自由貿易区で金融リース子会社を設立することを承認したという。

交通銀行関係者は「我々は自由貿易区で関連業務を発展させたい」と述べたが、同時に関連政策が明らかになるのを待ちたいとも語った。

(朝日新聞)10/8

<http://www.asahi.com/business/xinhua/japan/AUT201310080075.html> (-> <http://www.asahi.com/business/xinhua/japan/AUT201310080075.html>)